

## 第二十一回中央教化研究会議

### 一、開催趣旨

(1) お題目総弘通運動第一期四年目にあたり、さらにお題目の輪をひろげるため、日蓮一門の意識を相互に高め運動の意義を確認しあい、その核となろう。

(2) 現代社会における寺院（教会・結社）のあるべき姿を話しあい、立教開宗七五〇年に向け、開かれた寺づくり、伝道宗門の確立を計ろう。

(3) 管区各寺のお題目総弘通や信行会活動の現状を報告しあい、各自の体験のもと、誰もが参加できる活動について意見を交換しよう。

(4) お題目総弘通運動推進のため、中央と地方における教研会議、教化センターの今後のあり方について、その方策を検討しよう。

### 二、統一テーマ

管区各寺の教化とお題目総弘通運動

——本音で語ろう、あなたと教化——

### 三、会議形式

(1) 全体会議

基調講演「日蓮宗の教化とわたしたちの誓願」

現代宗教研究所所長

石川 教張 師

事例報告

① 「新しい村（正直村）づくりの試み」

帯広市法華寺住職

内山 智洋 師

② 「教化センターの活動」

福岡教化センター長

刀 禰 義 昭 師

北九州市大雄寺住職

(2) 分科会及びテーマ

○第一分科会〈教学部会〉「日常生活に密着した教学を考えよう」

混乱する現代を救うには、お題目の信仰以外ありません。いかにして人々にお題目のありがたさを伝えるか。そして日蓮宗こそ、その正統教団であることをアピールするにはどうすればよいか。それを話しあい、考える部会です。

○第二分科会〈寺檀部会〉「新しい信徒の獲得について」

檀信徒あつてのお寺。形骸化する檀家制度の中で、どうすれば活気のあるお寺と檀信徒の関係をとりもどせるか。そして新しい信徒を獲得するためにはどうすればよいのかを話しあい、考える部会です。

○第三分科会〈法器養成部会〉「教化意欲をもたせる人材育成」

後継者の不足やその質の低下が大きな問題になっています。本化の教師の自覚を持つ人材を養成することが急務です。信行道場をはじめとする教育機関の点検とその改善を話しあい考える部会です。

○第四分科会〈世代別教化部会〉「家族ぐるみのお題目信仰」

信徒層の高齢化は既成宗教の特長といわれます。反面、若者の間にはオカルトブームとか、妖しげな疑似宗教が流行しています。いかにすれば、若者たちの悩みを救うことができるか。高

齡化社会の問題等を含め、今きめ細かな教化が求められています。

○第五分科会〈教化伝道部会〉「教化システムの新しい開発」

技術の発展は日進月歩、教化のメディアも次々に新しい方法が開発されている現代です。教箋・ポスター・標語・テレフォン説教・視聴覚伝道・掲示板等、その実例と可能性を追及するのがこの部会です。

○第六分科会〈社会問題部会〉「社会問題とお題目教化」

日蓮聖人のご理想は、立正安国・浄仏国土顕現。お題目を信仰する者にとって、社会浄化は永遠の課題です。次々に生じる社会問題に、宗教者として如何ように対処していくべきか、それを探究する部会です。

○第七分科会〈教化組織部会〉「寺院間のネットワークづくりと教化センター」

既成宗教の新興宗教に比し、最も劣る点はその組織力だといわれます。組織の近代化が果たされなければ、お題目総弘通運動の伸展も望めません。それぞれのお寺がいかにして連携し、より効果的な教化活動を展開するかその方策を話しあい、実働をめざすのがこの部会です。

#### 四、開催方式

- (1) 告示と同時に別紙にて各分科会毎に二〜四項目の問題を設定する。
- (2) 出席者は一分科会を選び、その設問（必ず一つ以上）について意見を事前に、現宗研に提出する。

- (3) 提出された意見は、運営委員会にてとりまとめ、開催当日はこれをもとに各分科会毎に更に討議を加えてもらい、全体会にてそのまとめを報告する。

- (4) 中央教化研究会議においてまとめられたものは、教区の教研会議の資料や、今後の教化のハン

ドブックとして役立てられるよう、小冊子として刊行する。

五、会場 池上本門寺・朗峰会館

六、宿舎 朗峰会館

七、参加者 宗務所長より推挙委嘱された運営委員(管区二名)但し、希望者の参加は若干可能

八、持参品 ○数珠・折五条・布教服・法華経開結・筆記用具・洗面用具

○「お題目総弘通運動」I (1) (宗務院刊)

○各寺発行の教化資料

九、日程 ◎第一日目 九月六日(火)

受 付 午前九時～九時三十分(朗峰会館)

開 会 式 午前九時三十分～十時三十分(記念撮影)(本殿)

全体会議 午前十時三十分～十二時二十分(朗峰会館)――基調講演・事例報告

昼 食 午後十二時二十分～一時(指定会場)

分 科 会 午後一時～六時(指定会場)

懇 親 会 午後六時三十分～八時(指定会場)

入 浴 午後八時～九時

◎第二日目 九月七日(水)

起床・朝勤 午前四時三十分

朝 食 午前七時三十分

分 科 会 午前八時三十分～十時(指定会場)

全体会議 午前十時～午後十二時三十分（指定会場）

教区別懇談会 午後十二時三十分～一時三十分（昼食）（指定会場）

誓願唱題行 午後一時三十分～二時（本殿）

閉会 式 午後二時～二時三十分（本殿）

## 十、分科会設問

### ○第一分科会〈教学部会〉

1、信仰のおかげで商売が繁昌しております。さらに拡張をねがい、お参りをしております。物欲のために信仰することは邪道だといわれましたが、商売繁昌をねがって信仰することは悪いことなのでしょうか。

2、主人の弟が自殺で亡くなっております。自殺をした人は成仏できないと聞きましたが、どのようにしたらよいのでしょうか。

3、家庭内にトラブルが絶えません。知人にさそわれてある新興宗教にまいりましたところ、先祖の悪因縁があるといわれました。そのようなことがあるのでしょうか。あるとしたらどのようにして絶ち切ったらよいのでしょうか。

### ○第二分科会〈寺檀部会〉

1、未信徒（信徒）に毎月教箋を送っていますが反応がありません。とくに若者が本宗に関心をもつ有効な教化方法は何だと思えますか。

2、本宗の場合、信徒が布教者にならない。しかしM会では新入会員の指導にあたって、三人の信徒をつくれれば利益があると説いています。どう思いますか。

3、ある法華系伝統教団はK市の全戸訪問運動をしました。もし、宗門でこのような運動をす

るとしたら、あなたは(管区では)できますか。

○第三分科会 〈法器養成部会〉

1、もし、あなたの息子が僧侶になるのが嫌だといったら、あなたは息子に僧侶の使命をどう説明しますか。

2、あなたの寺の後継者が、朝の勤行もお説教もしないような全く布教意欲をもたないような後継者であったら、どんな教育をしたらよいと思いますか。

3、夏休みに子供を僧風林にやったところ、帰ってきてから得度・度牒を受けたくないといっただした。もし息子が得度する意識がなくても、あなたは息子を得度させますか。

○第四分科会 〈世代別教化部会〉

1、お寺のことは、おばあちゃんに任せると息子は言っていますが、私(おばあちゃん)としては、常々息子夫婦にも一緒に信仰してもらいたいと思っています。息子夫婦にどう話したら良いのでしょうか。

2、夫に先立たれた老妻は、病弱なこともあって「早く主人が迎えに来てほしい」と泣くのです。それでも長生きをしなければならぬのでしょうか。

3、お寺に來ている若者が、友達から「おまえ、若いのにどうしてお寺なんかに行くのか」と冷やかされています。しっかりとした使命感をもって友達に説明してほしいのですが…。

○第五分科会 〈教化伝道部会〉

1、あなたが実用化しているものの中で、一番有効であった布教方法と機材は何ですか、またその有効であった理由はどこにあると思いますか。

2、各寺、各管区、宗門全体をも活性化していく布教のシステム化について、良いアイデアはありますか。

○第六分科会〈社会問題部会〉

1、過疎化や転職のため都会へ檀家が移ってしまい、年に一・二度しか話す機会がありません。移転先の近くのお寺に頼んだ方が宜しいのでしょうか。

2、お寺の信行会で立正平和運動について話してみたのですが、全く関心をもってもらえませんでした。私も良くわからないのですが、どうしたら宜しいのでしょうか。

3、病気で死にそうな老人に「死ぬのは怖い」といわれました。どのような法話をしてあげたら良いでしょうか。(体験があればお聞かせ下さい)

4、病気にかかっている人に、その因果関係を説明したいのですが…。

○第七分科会〈教化組織部会〉

1、信行活動をする場合、例えば講師選定・教箋発行のこと等で困ったとき、あなたは誰に相談しますか。

2、他寺の信行会から交流を申込みれたとき、あなたはどうか返事をしますか。

3、地域教化センターに望むことは何ですか。(既設の地域においては地域教化センターに望むこと。未設の地域ではどのような地域教化センターを作ろうとお考えですか)

全体会議・分科会役配分担

○全体会議座長 豊田正通師

副座長 進藤義遠師

○分科会(敬称略)

7	6	5	4	3	2	1	座長
伊藤立教	久住謙是	龍澤泰孝	古河良皓	新井貫厚	三原正資	小倉光雄	
現宗研顧問							
鳴田堯嗣	山口河崎近江 山崎俊栄・裕光 裕光	神谷豊田 行宏	石井錬昭・鎌田行学	都中野龍張 龍張	小川井村 英爾大祐・鈴木国守	岩堀豊種・長谷川正徳	助言者
渡辺義伸	蟹江一肇	進藤義遠	井本藤岡 大島啓禎	原顕彰	菊池泰瑞	井藤太然	
本良信典・的場慶雅	渡部公容・山口裕光	鈴木浄元・白部哲応	蓮見高純・望月兼雄	常岡裕道・勝呂昌信	片野博義・高橋謙祐	植坂行雄・植田観樹	発題者 運営・記録